



教育講演会から学んだこと

10月は1学期のまとめの時期で、学校では子どもの成長を実感できるようなまとめを工夫していることと思う。そして、すぐに2学期がスタートするが、1学期の成果や課題等の振り返りを、2学期の学びに繋げPDCAサイクルにより、子どもの更なる成長へと繋げてほしい。8月に配信した教育講演会「授業づくりの基本と深め方」講師 京都大学 石井英真氏から各学校、授業づくりに関与して多くの学びを得たと思う。2学期以降の授業づくりの視点となりそうなことを、私なりにこれまでの反省を踏まえ少しまとめてみた。

ご存じの通り、県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡの学びの質を高める授業改善・学校改善（PPII）では、「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」の3つの視点と5つの方策をとおして授業改善を推進し、子ども達に「新たな時代をつくるために必要とされている資質・能力」を育むことを目指している。石井氏は「子ども主語の学びにするためには、それを支える先生方の学びが大事」と述べている。それは教材研究を進める上で教科書や指導書をしっかり読みこなすことを基本として、目の前の子どもの実態を重ねた研究が重要であると言っていることである。もう少し言えば、教科書や指導書をなぞるだけの授業では、子ども主語の学びには繋がらないと言っていることであろう。学校でも「自校の子ども主語の学びの姿」をより可視化し、共通の視点を持って、授業に取り組む研究を深める事を期待する。点ではなく面の授業改善を、実践していきたいものである。

また、「授業は学びへの導入である」とも述べている。私は生きて働く知識技能の導入であろうと捉えた。確かに子ども達が学習教材に没頭すれば、学習課題は生活の延長線上へと発展していくであろう。私の経験の一例ではあるが、小5理科の学習で「物のとけ方」の学習の後、多くの子ども達が、教科書では扱っていないジューズやコーラ類には何が含まれているのかを調べるために家庭で実験してきた事があった。細かな成分までは突き止められなかったが、今考えれば、子ども達がまさに学習したことを、生活の延長線上にある課題に当てはめ解決しようとする姿であり、石井氏の言う「学びへの導入」であったのかもしれない。

他に石井氏は「教材研究のプロセスが楽しかったことを子どもにも味わわせる」と述べている。教材研究をする中で、いろいろ創造するプロセスが楽しい事が多い。先生方の中には、すぐに結論（解答）に寄せていこうとする事はないだろうか。私もかつてはそうだった。結論を急ぐあまりに「Aさんの発言、何か違うね」というと、やはり子ども達は、忖度して教師が求める結論に寄せてきた。やはり「何か違うね」ではなく、「新しい視点だね」とAさんの思考を尊重し、結論を急がない授業づくりが大事だったなと、今更ながら反省した。

さらに印象的だったのは、学習のまとめについて、石井氏の「想定外が出たら先生を超えている」との言葉である。確かに授業で、子どもから想定していない、先を行く考え等が出てきたりして、「なるほど」と子どもに教えられた経験を持つ先生方も多いのではないか。授業づくりでは、子どもが教師を超えていく授業を目指してもおもしろいのではないだろうか。

最後に、石井氏から、各々が学んだことを授業づくりに活かして「面の授業改善に」取り組んでほしいと願っている。授業改善が進めば子ども達の「自己肯定感の高まり」にも繋がることと期待できる。「新たな時代をつくるために必要とされている資質・能力」を育むためにも、教育研究所は引き続き、先生方を支援していきたいと考えている。

10月 研究所事業予定

- ※ 初任者のグループ研究に係る取組
 - ※ 中堅者の道徳科または特別活動の主事招聘授業
- 法定研修については、1学期分の提出物があります。詳細は公文を確認ください。
各種経年研修については、研究授業後の報告書の提出が適宜ありますので、滞ることが無いようお願いいたします。

118期教育研究員 成果報告会・修了式

新垣 研究員(幼児教育)
神崎 研究員(特別活動)
國場 研究員(ICT教育)

9月27日(火)に第118期教育研究員の成果報告会・修了式が行われ、所属園・学校の校長先生をはじめ、来賓の方々にご列席いただきました。半年間の研究の成果を還元していくことを期待します。研究所ホームページに研究報告書を掲載すると共に、10月18日(火)までオンデマンド配信をいたします。



119期教育研究員

新垣 仁美 研究員(幼児教育)
末吉 理恵 研究員(特別支援)
狩俣 高志 研究員(道徳科)
宮里 理枝子 研究員(道徳科)

後期は、4名の研究員が研究を進めていきます。

5(水)	第119期入所式
12(水)	テーマ検討会
24(月)	項立て検討会

新刊図書の案内



書名	著者
個別最適な学びの足場を組む。	奈須 正裕
生活・総合 資質・能力の育成と学習評価	田村 学
子どもの問題行動へのエビデンスある対応術	長澤 正樹

令和5年度 研究員募集

令和5年度の教育研究員の募集が始まりました。詳細は、デスクネッツ・教育研究所 Web ページに掲載いたします。先生方の積極的な応募をお待ちしています。なお、特別研究員の募集も行っております。詳細は、教育相談課担当指導主事へお問い合わせください。また、こども園教諭の研究員については、募集要項を確認の上、こども教育保育課担当指導主事へ提出をお願いします。